

2021「かやぶき屋根プロジェクトシンポジウム」

かやぶき屋根プロジェクトの 活動について

横浜市歴史博物館 学芸員 橋口 豊

はじめに

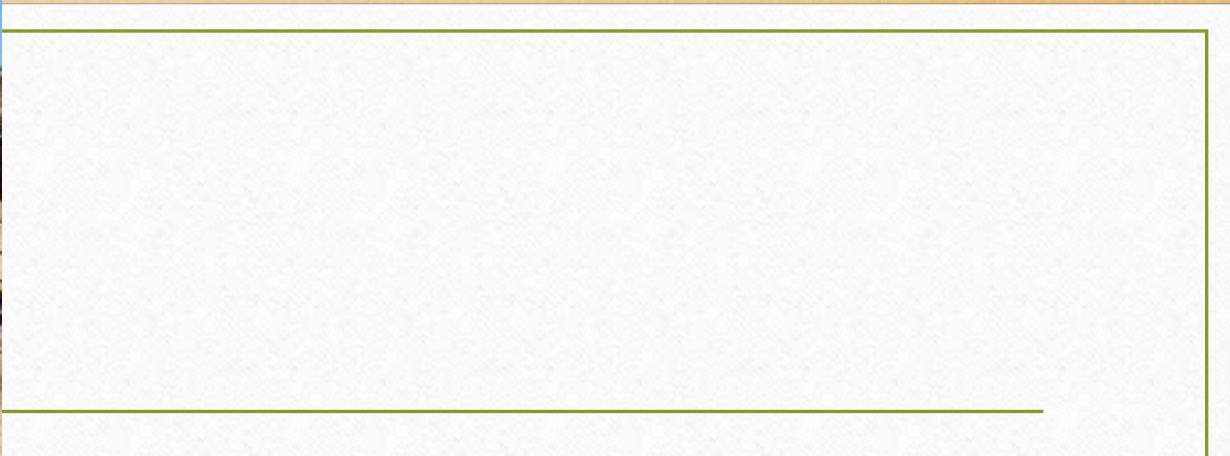
令和2(2020)年12月17日、国連教育科学文化機関ユネスコが、茅葺と茅採取を「伝統建築工匠の技 木造建築を受け継ぐための伝統技術」の要素のひとつとして無形文化遺産に登録決定しました。茅や茅葺屋根の保存・活用に追い風が吹く形となり、魅力あるコンテンツの提供の必要性をさらに強く感じています。翻って、令和2(2020)年2月から日本でも猛威をふるい続けている新型コロナウイルス感染症によって思うような活動ができない状況が続いています。

本稿では横浜市歴史博物館の「かやぶき屋根プロジェクト」の概要を報告するとともに、現状どのようなことができるのかについても触れようと思います。

経緯

横浜市歴史博物館では、平成8年に一般公開された大塚・歳勝土遺跡公園内の、特に史跡部分について管理を行っています。

茅葺屋根は人がその場に生活して手入れを続けることで長持ちしますが、大塚遺跡の復元建物は屋外展示資料であり、人が生活しているものではありません。よって、日差しによる紫外線や風雨、落ち葉による影響を受けやすくなります。





かやぶき屋根プロジェクト

可能な範囲で茅葺屋根の劣化を食い止めるため、またより多くの人々が楽しみ・学びながら活動できる場を創出するために、以下のとおり目標を立て、「かやぶき屋根プロジェクト」を立ち上げて平成29(2017)年より、活動を始めました。

- ①茅葺屋根職人に教えを請い、自分たちでも簡易な修繕を実施できる技術の獲得。
- ②素材となる茅の確保と活用。
- ③上記2点について、将来的に公募によるボランティアとともに継続して実施する。

平成29年度の活動事例

第1回：平成29年9月30日

- 研修の1回目は茅葺職人の茅吉さんにお越しいただき、座学と大塚遺跡でのレクチャーを受けました。
- 1軒の復元竪穴住居を対象に修繕の研修を行いました。

朝霧高原の茅場とそこでの活動



写真

























平成29年度の活動事例

第3回：平成29年12月9・10日

- 3回目の研修は茅刈りの講習を受け、全員無事合格しました。











平成29年度の活動事例

第4回：平成30年2月23日

9月に修繕した復元竪穴住居について引き続きの修繕を進めました。より本格的な修繕を指導される中で、かやぶき屋根プロジェクトとして今後必要な道具を確認していきましました。















清掃(落ち葉刷き 令和元年)



求む! たて穴住居をなおす人



令和2年度
かやぶき屋根プロジェクト
ボランティア募集!



普及・報告など

「ふるさと文化財の森システム推進事業普及啓発事業」として平成30年度から実施

横浜市歴史博物館の定期刊行冊子やHPへ掲載

報告会の実施

動画の撮影・配信



茅束作り



葺木



差し茅の様子



修繕した
復元竪穴住居

朝霧高原 茅たたく人

大塚・歳勝土遺跡公園だより

— かやぶき屋根プロジェクト 始動 —

茅たたく人

文「茅刈り人」連

(高橋健/日和田智幸/樋口 豊)

前回の遺跡公園だよりで「茅刈り人」となった私たちは、平成29年度をとおして「かやぶき屋根プロジェクト」に取り組みました。この場を借りて報告します。

その目的は、復元竪穴住居を実際に修繕することによる茅葺き技術の蓄積です。具体的には全5回の研修を行いました。講師には私たちが「茅刈り人」になるきっかけを作っていた「富士かやぶき建築茅吉」の杉寄靖司氏をお迎えしました。

研修にあたっては協力者を募らなくてはなりません。「茅刈り人」連による度重なる検討の末、近隣在住者を中心として研究に関係ある学生、やる気あふれる主婦、経験者など10名程度ですが、老若男女多彩な人材に参加いただけることとなりました。

次に修繕するための「葺木」という道具を準備しました。これは経年によって浮き上がった茅をたたき込むための木製の道具です。日常の管理に必須となります。

果たして平成29年9月30日に無事第1回目の研修を大塚・歳勝土遺跡公園で行うことができました。初回は朝霧高原茅場についての紹介と基本的な修繕方法のレクチャーを受け、11月25日に開催した2回目には、

早速本格的な修繕を行いました。大塚遺跡内の復元竪穴住居(Y-39号)を対象に、傷んだ茅を新たな茅と交換する「差し茅」や「葺木」を使ったたたき込みの指導を受けました。平成30年2月23日には第4回研修として引き続き復元竪穴住居(Y-39号)の修繕を行いました。「差し茅」用の茅束作りから足場を据えて高所での「差し茅」の技術を学びました。

12月9・10日、平成30年3月10日には第3・5回目の研修として朝霧高原茅場で茅刈りを行いました。今年から新たに参加された方に「茅刈り人」になってもらうことと、修繕に必要な茅を確保することが目的です。朝霧高原の茅は他の茅場と比較して背が低いとのことですが、刈り集めて束ねると非常に大きく感じられます。なお、研修参加者はいずれも無事「茅刈り人」になることができました。

5回の研修をとおして茅葺き屋根修繕の基礎を学ぶことができました。そして平成30年度以降も引き続き「かやぶき屋根プロジェクト」は継続していきます。「茅刈り人」かつ「茅たたく人」連の活躍にご期待ください。



茅を葺く人

大塚・歳勝土遺跡公園だより
かやぶき屋根プロジェクト 2年目

文「茅刈り人」連
高橋健/日和田智幸/樋口 豊

「かやぶき屋根プロジェクト」は、朝霧高原茅場の茅を刈ることができる「茅刈り人」を育成し、大塚遺跡にある復元竪穴住居の修繕に必要な茅を確保すること、自分たちでできる修繕技術を習得することを目的として、1年間活動してきました(博物館News No45)。

平成30年度の「かやぶき屋根プロジェクト」は「ふるさと文化財の森システム推進事業普及啓発事業」として文化庁と委託契約を結び、活動することとなりました。「朝霧高原茅場」は、文化庁によって「ふるさと文化財の森」設定地とされています。「ふるさと文化財の森」とは、文化財建造物を修理し後世に伝えていくために必要な資材の確保を行うために文化庁が設定している地域のことです。「かやぶき屋根プロジェクト」は「朝霧高原茅場」の茅を活用するとともに、「ふるさと文化財の森システム」の普及啓発も推進していくこととなりました。

さて、平成30年度はまだ半ばですが、昨年度の活動を踏襲しつつ新たな試みも取り入れています。6月23日(土)に横浜市歴史博物館の入口前スペースにて朝霧高原茅場で刈り取った茅を使い、差し茅用の茅束を作成しました。事前にチラシなどで告知していたこともあり、興味を持った市民の方が数名参加してくれました。

11月18日(日)は「かやぶき屋根プロジェクト」に新たに興味を持っていただいた人への研修会、11月25日(日)は復元竪穴住居の修繕を講師の先生の指導のもと

行いました。修繕内容はまず「葺木」を使い竪穴住居全体をたたき込むことで浮き上がった茅を安定させます。そして屋根のやせた部分に差し茅をしていくのです。昨年度は講師より事細かに指導を受けながら行いましたが、今回は難しい部分のみ指導をいただく形で進めることができました(まだまだ多くご指導はいただいておりますが…)。ほんの少しかもしれませんが「茅刈り人」たちが茅の扱いに上達していることを実感した瞬間に立ち会うことができました。

この後年度内の研修は、月一回のペースで進める予定です。自分たちでできる修繕をとおして、市民の皆さんに大塚・歳勝土遺跡公園を身近に感じていただける機会を多く作れるようにこれからも活動していきますので、よろしくお願いします。



厚くなった茅を取りのぞいて

茅を葺す

差し茅は
たたいておめかし



修理現場の公開



檜皮採取



通路整備



檜皮こしらえ作業







復元竪穴住居清掃の様子(タイムラプス動画)

35 回視聴・2021/02/01



0



0



共有



保存



討論「かや」の活用とこれから

意見交換